

歳出を町民一人あたりで見ると

区分 金額 一人あたり金額 (前年比)

区分 金額 一人あたり金額 (前年比)

■民生費 15億5,948万円 98,639円 (+4,228円)

老人保護措置事業や障害者福祉サービスなどによる高齢者や障がい者などの支援をはじめ、保育所の補修整備、よつば保育園の民営化、子育て応援特別手当の支給などを行いました。また、介護保険、国民健康保険会計等への繰り出しなどを行いました。

■衛生費 5億5,406万円 35,045円 (+2,739円)

健(検)診事業や健康教室などの健康づくり対策、妊婦健診助成の拡大や赤ちゃん訪問などの出産・子育て支援のほか新型インフルエンザへの対応などを行いました。また、ごみの減量化や省エネ推進などの環境保全対策のほか、水道、病院事業会計への繰り出しなどを行いました。

■農林水産業費 3億8,923万円 24,620円 (+5,239円)

地域農業活性化センターによる農業者支援や遊休農地の解消及び集落営農の推進などのほか、土地改良施設の整備やリニューアル、松くい虫防除事業などの実施による森林環境保全などに取り組みました。

■商工費 1億9,681万円 12,448円 (+1,125円)

経済不況が続く中で、工業では、町内企業への金融対策や雇用維持のための支援などを行いました。商業では、商工会のプレミアム商品券の発行や住宅改築などへの給付金交付事業への補助を行うなど、町内の消費拡大を支援しました。観光交流では、観光4シーズン化事業や、他市町との広域連携を推進するなどして交流人口の拡大に努めました。

■土木費 10億9,916万円 69,523円 (▲13,400円)

町道の改良や維持工事のほか、国・県道の幹線道路網の整備に努めました。鮎貝まちづくり事業では、白鷹町文化交流センター「あゆーむ」が完成したほか、宮の前交流広場、四季の郷住宅団地などの整備を行いました。このほか、下水道特別会計への繰り出しなどを行いました。

■教育費 7億7,402万円 48,958円 (+7,619円)

学校教育では、スクールバスの全町的な運行をはじめとして、安心・安全な教育環境整備に努めました。また、荒砥高校の存続に向け、新入生応援事業を実施しました。生涯学習・スポーツでは、各種講座や大会を開催し、地域づくり活動や生涯学習・生涯スポーツの推進に努めました。芸術文化面では、グランドオープンした「あゆーむ」を核として各種公演や展示などを実施し、多くの方から好評を得ています。

■公債費 14億2,175万円 89,927円 (▲9,080円)

建設事業などを行うために借り入れたお金の返済などに使われました。新たな借入れについては「公債費負担適正化計画」を策定し借入額の抑制に努めています。

■その他 17億9,429万円 113,490円 (+28,485円)

総務費では、長井線やデマンド型交通システムなどの交通対策、情報化推進、交通安全・防犯対策、定額給付金の給付、財政調整基金の積立などを行いました。消防費では、西置賜行政組合への常備消防負担金のほか第3分団の消防ポンプ自動車の更新、消火栓設置などの施設整備を行いました。これらのほか議会費、労働費、災害復旧費に使われました。

※町民一人あたりの金額は、平成22年3月31日現在の町の住民基本台帳人口15,810人で割ったものです。

財政の早期健全化及び財政の再生並びに公営企業の経営の健全化を目的として制定された「地方公団体の財政の健全化に関する法律」により、健全化判断比率及び資金不足比率について公表が義務付けられています。いずれかの比率が早期健全化段階や財政再生段階(将来負担比率を除く)の基準値以上になった場合には、それぞれ法で定められた計画の策定を行い、財政の健全化を図ることとなります。

平成21年度決算に基づき白鷹町の状況は下記のとおりです。基準を下回りました。引き続き財政の健全化に取り組ま

実質公債費比率・将来負担比率とも改善！
平成21年度決算に基づく健全化判断比率及び資金不足比率を公表します

◆健全化判断比率について (単位：%)

比率名	本町の状況	早期健全化基準	財政再生基準	参考：昨年度の状況
実質赤字比率	— (赤字なし)	14.87	20.0	— (赤字なし)
連結実質赤字比率	— (赤字なし)	19.87	40.0	— (赤字なし)
実質公債費比率	19.1	25.0	35.0	21.1
将来負担比率	105.1	350.0		121.9

◆公営企業における資金不足比率について

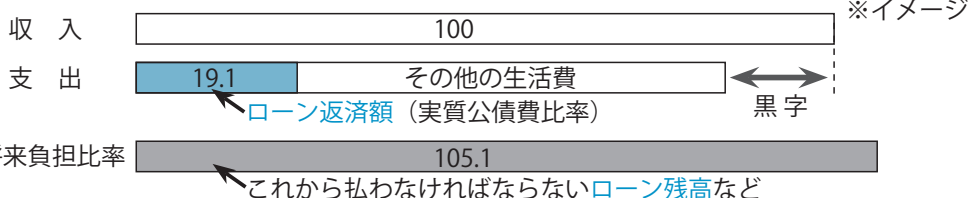
公営企業ごとに、資金の不足額が事業の規模に対してどれくらいの割合になっているかを示しています。水道、町立病院、訪問看護ステーション、下水道、農業集落排水の全会計について、資金不足は発生していないため比率はありません。

◆それぞれの比率を家計に例えると…

町の財政状況について、一般家庭の家計に例えることは、多少の無理がありますので、あくまでイメージとしてご紹介します。

- ◇実質赤字比率 : 1年間の家計に占める赤字の割合
- ◇連結実質赤字比率 : 2世帯住宅などの場合、それぞれの世帯の家計を合算した家族全体での1年間の家計に占める赤字の割合
- ◇実質公債費比率 : 年収に占めるローン返済額の割合
- ◇将来負担比率 : ローン残高や生命保険の支払いなどが年収の何年分に相当するかを示した割合

ある家庭の1年間の収入(100)に当てはめると



※健全化判断比率などに関する詳しい内容は、町のホームページをご覧ください。